

# 乳価交渉の現状について

## 生産局畜産部

平成20年10月27日

農林水産省

# 生乳等の需給の状況

- ・20年度は、国際乳製品価格の高騰等を背景とした国産の需要増を踏まえ、生産者団体において増産型の計画生産(+2.4%増)を実施。
- ・20年4～8月の生乳生産量(累計)は、対前年同期比では▲0.3%と前年度並み(北海道:3.3%、都府県:▲3.5%)。追加緊急対策の着実な実施や飼養管理の徹底等により生乳の確保を進めているところ。
- ・一方、バター不足への対応については、カレントアクセスによる輸入の前倒し、乳業メーカーによる増産、業務用バター5千トンの追加輸入等を実施。量販店においてはほとんどの店舗で品薄状態は改善。
- ・また、20年4～8月の総合乳価は、乳価の引上げや需給状況から、昨年の同時期に比べて上昇しているところ。

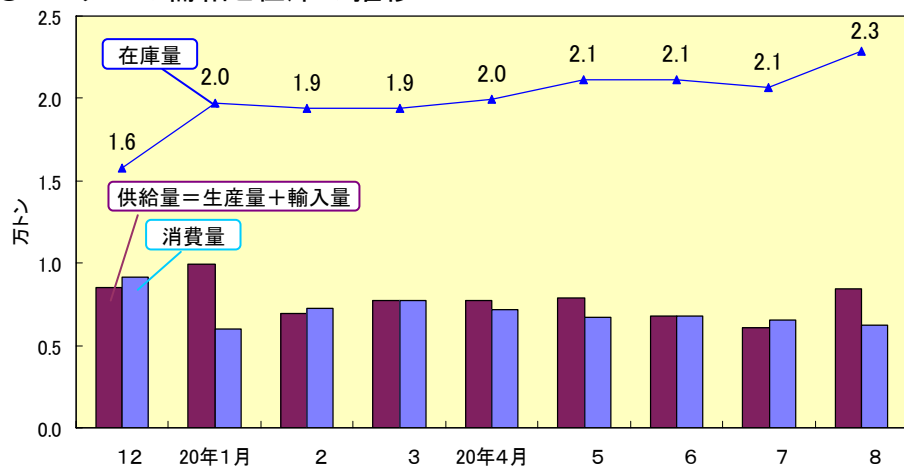
## ○ 生乳の需給状況

単位:万トン、%

	18年度	19年度	20年度(4～8月)
生産量	809(▲2.4)	802(▲0.8)	339(▲0.3)
牛乳等向け処理量	462(▲2.5)	451(▲2.4)	189(▲1.3)
乳製品向け処理量	339(▲2.4)	343(▲3.5)	147(+1.0)
うち加工原料乳	203(▲6.8)	196(▲3.5)	79(▲7.2)
うちチーズ・生クリーム等向け	136(+5.1)	147(+8.5)	68(+12.7)

資料:農林水産省(牛乳乳製品統計)

## ○ バターの需給と在庫の推移



## ○ バター不足への対応

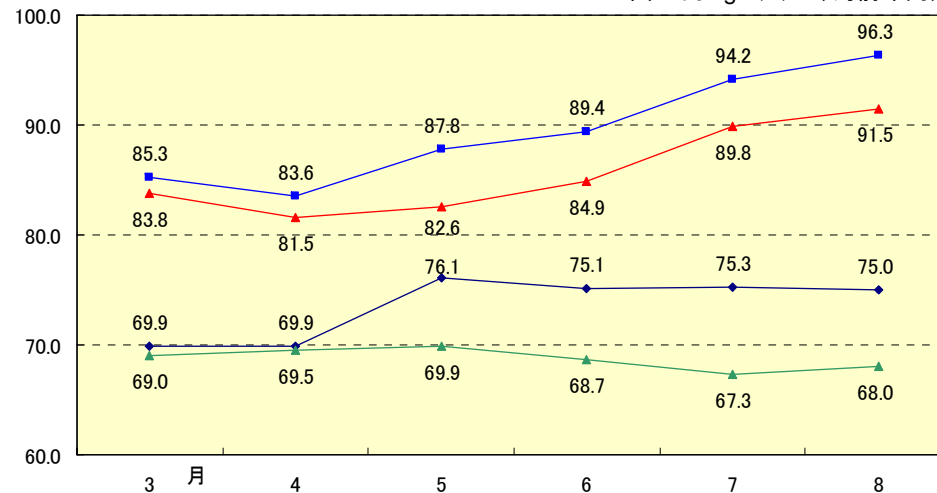
- ・カレントアクセスによる輸入の前倒し
- ・品薄になった家庭用バターの乳業による増産
- ・業務用バター5千トンの追加輸入の決定(6月27日)



カレントアクセスに基づき既に輸入契約した約8,600トン及び追加輸入に係る5千トンのバターを、本年11月までに売渡し

## ○ 総合乳価の推移

単位:円/kg ( )は、対前年同月差



資料:農林水産省調べ「総合乳価」とは、当該月に酪農家に支払われた乳価

## 牛乳の小売価格等の状況

- ・牛乳の販売単価は、小売価格の引上げにより20年4月以降上昇し、7月は3月に比べ+6.1円の174.5円。
- ・これを価格帯別の販売本数シェアで見ると、160円以上層が増加する一方、150円未満層は減少。
- ・一方で、4～8月の牛乳の生産量は、前年同期比▲2.5%と、最近の傾向以上の大幅な落ち込みはなく、現時点では、小売価格の引上げによる消費の減退は顕著には見られない状況。
- ・乳業の主体別の販売本数シェアを見ると、PB商品や中小乳業のシェアがやや拡大の傾向。
- ・乳価の再交渉については、広域指定団体と大手乳業メーカーとの間で、飲用乳価について来年3月からの10円引上げで合意。(乳業各社は、今後量販店等と牛乳の納入価格を交渉)。

### ○ 牛乳の販売単価の推移

単位:円/本

	20年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
牛乳	169.9	168.8	168.4	172.5	174.0	173.8	174.5

資料:農林水産省作成、(注)税抜き価格

### ○ 牛乳の生産量の推移

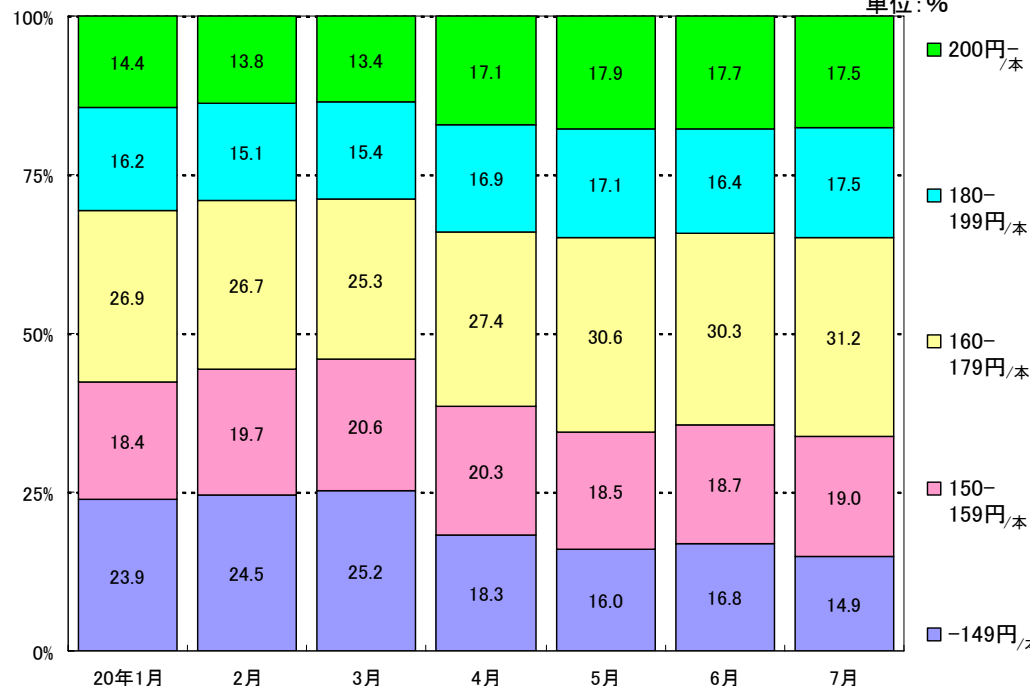
単位:千キロリットル

	18年度	19年度	20年度(4～8月)
牛乳生産量	3,679.0(▲3.0)	3,578.6(▲2.7)	1,477.6(▲2.5)

資料:牛乳乳製品統計

### ○ 牛乳の価格帯別の販売本数シェアの動向

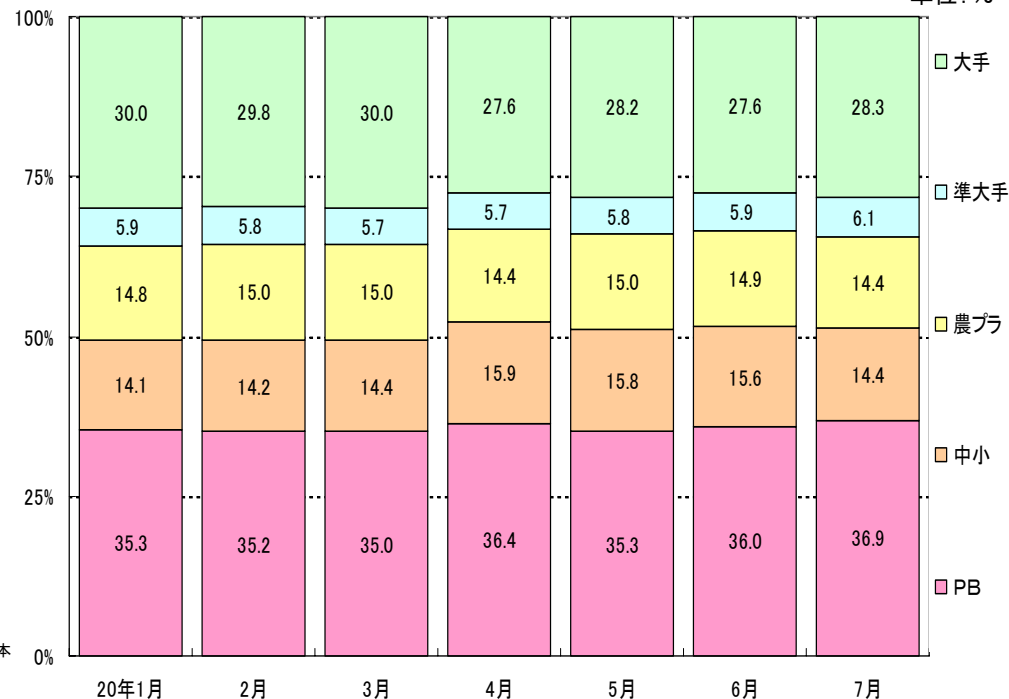
単位:%



資料:農林水産省作成、(注)税抜き価格

### ○ 牛乳の乳業の主体別の販売本数シェアの動向

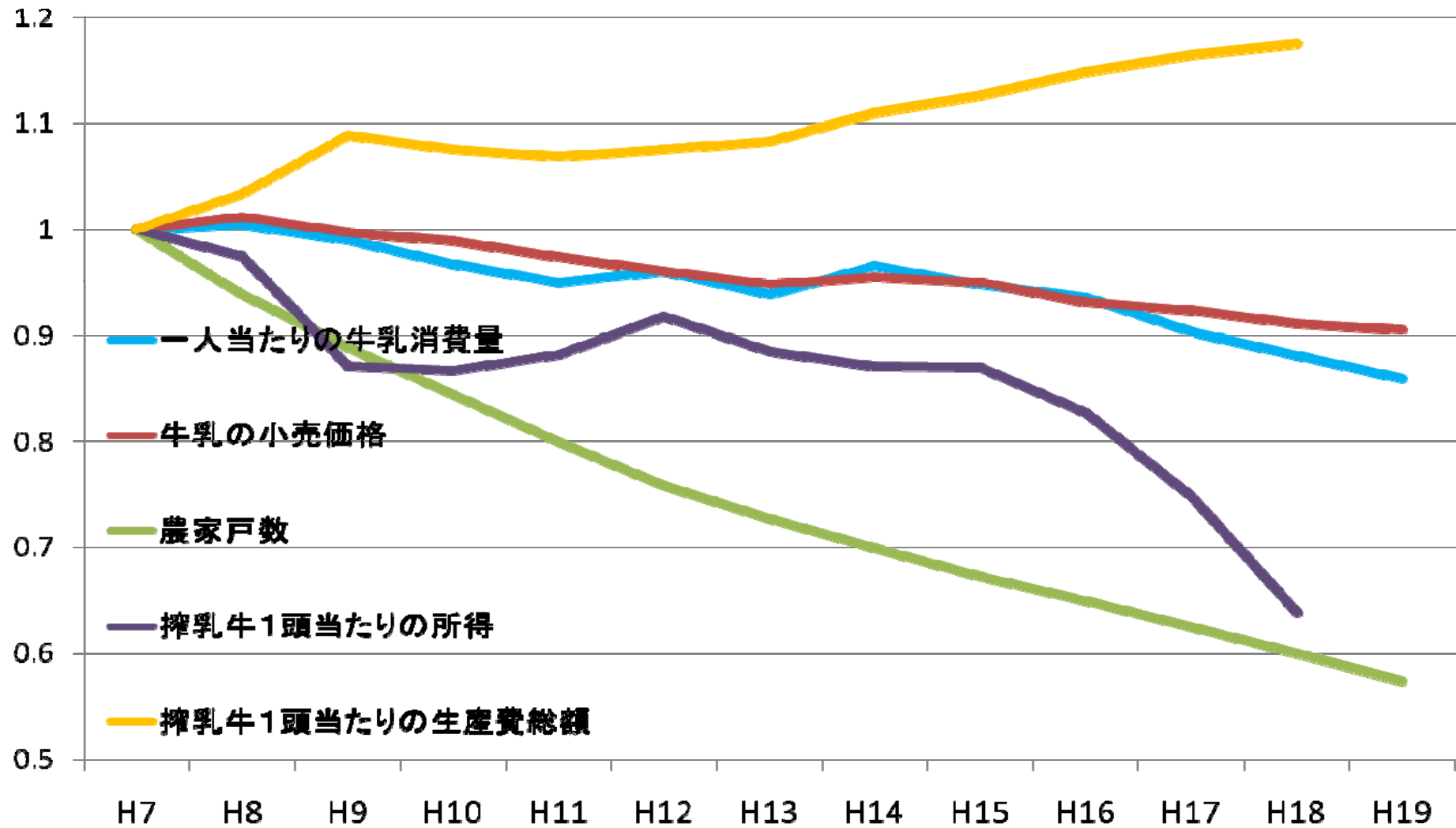
単位:%



資料:農林水産省作成

## 酪農を取り巻く情勢について

(平成7年の値を1とした比率)



農林水産省「畜産統計」、「牛乳乳製品統計」、「食料需給表」、「畜産物生産費調査報告」総務省「家計調査報告」、日本経済新聞社POS情報サービスより作成